

自主防災組織災害対応訓練

イメージ TテEンN



自主防災組織災害対応訓練 イメージTEN とは？

◎災害時に自主防災組織がどのように対応したらいいかを具体的に考えるイメージトレーニングのことで、**Image Training & Exercise of Neighborhood** (想像) (訓練) (演習) (隣近所) が名称の意味ですが、イメージする課題が最大10題付与されることも「TEN」の由来です。

- 参加者が自主防災組織本部の様子を時系列で疑似体験できます。
- 具体的で実践的な防災対策や災害対応が理解できます。
- グループに分かれて演習するため、参加者同士の交流や連帯感が生まれます。
- 煩雑なルールはなく、準備も簡単。経費もかかりません。

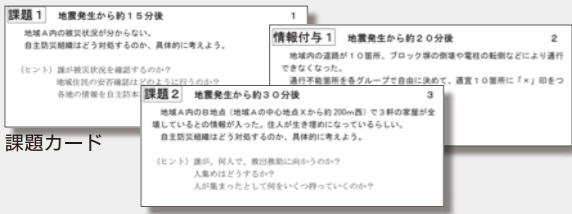
準備するものは？

イメージの対象地域と地図

実在の地域が理想ですが、参加者が様々なところから集まっている場合は、「架空地域A」で行います。

- 架空地域Aの地図
- 架空地域Aの地理的条件凡例
- 架空地域Aの地図上の表示凡例

- イメージする対象地域の地図 (住宅地図や市街地図など)
- 実在の地域で行う場合は対象地域の地図上の表示凡例



様式類・その他

- 参加者に付与する課題カード(紙)
- 自主防災組織役員名簿<表1>P8参照
- 防災資機材備蓄保有数<表2>P8参照
- 筆記用具、文房具類
- 地震発生条件を決めるくじ



- 〈注〉◆ 架空地域Aは、津波や山がけ崩れの危険がない標準的な街区としています。
- ◆ 架空地域Aで行う場合は、●は県危機管理部のホームページからダウンロードできます。
 - ◆ 実在の地域で行う場合は、実際の地理的条件(危険予想地域を含む)、自主防災組織の役員、防災資機材のデータを使用してください。
 - ◆ 実在の地域で行う場合で、参加者が実際の地理的条件を認識している場合は、地図の代わりに街区の様々な風景を撮影した写真集を使用してもかまいません。
 - ◆ 対象地域の地理的条件凡例や地図上の表示凡例は、グループごと配布せず、プロジェクターで映写したり、模造紙に大きく掲げるなど、全員で確認できる方法でもかまいません。

イメージTENを始める前に

- ◎参加者のグループ分けを行います。1グループ当たり5～10人が適当です。
- ◎司会進行役を補助する要員が1～2人いると効率的です。



イメージTENをスタート

全体の所要時間の目安は、約2時間～3時間

I 概要説明 約10分

- ① **イメージTENの概要やねらいの説明**
概要やねらい、おおまかなルールやスケジュールを解説します。
- ② **イメージする対象地域の地図を固定**
グループごと各テーブルに対象地域の地図を固定します。
- ③ **グループメンバーの自己紹介**
グループごとに参加メンバーが自己紹介し、話しやすい雰囲気づくりをします。メンバーが顔なじみ同士の場合は省略してかまいません。
- ④ **対象地域の地理的条件の確認**
架空地域Aの場合は、地理的条件及び地図上の記号等の表示について、凡例を用いて説明します。参加者全員がイメージできるようにします。
実在の地域で行う場合で、参加者がその地域の地理的条件を熟知している場合は、確認の時間を省略してかまいません。

II 訓練上の役員、防災資機材の確認 約5分

- ① **自主防災組織役員の確認**
実在の地域(自主防災組織)で行う場合は、参加者自身が役員本人として訓練します。また、情報班・消火班などの班員についても、実際の班員が参画していると仮定します。架空地域Aで行う場合は、地域A自主防災組織役員名簿<表1>の「会長～防災委員5」までの役員欄に、グループごと配役を決め、氏名を記入してください。配役を決める際には、自薦・他薦・じゃんけんなどグループごと自由に決めてかまいません。
なお、役職欄に「会計」とありますが、訓練上、会計事務はありません。
情報班・消火班などの班員の人数は、別途、地震発生条件が決まった後に人数を決めて記入しますので、ここでは空欄にしておいてください。(P4 IV②参照)
- ② **防災資機材の品目と数量の確認**
実在の地域(自主防災組織)で行う場合は、実際に保有する品目と数量で行います。架空地域Aで行う場合は、防災資機材備蓄保有数<表2>の品目と数量で行います。

Ⅲ 地震の発生条件の決定

約5分

① 地震の発生条件

イメージの前提となる地震の発生条件を決めます。

司会進行役があらかじめ決めておいてもかまいませんが、演習のゲーム性を演出する場合は、「月」「曜日」「時刻」「天候(気象条件)」ごとに、くじ引きで決める方法があります。

② くじ引きの方法

原則は自由ですが、一般的には下記の方法がよいでしょう。

細長い厚紙や札に、月(12本)、曜日(7本)、時刻(2時間おきに12本程度)、天候(晴れ・雨など8パターン程度)を記載し、各々参加者に引いてもらいます。

くじ引きが終わったら地震の発生条件を確認し、「○月の○曜日の○時に、震度6強の強い揺れが1分以上続きました。そのときの天候は○○です。」と復唱します。

地震発生

Ⅳ 地震発生後の本部開設

約5分

① 自主防災組織の災害対策本部の設置

地震発生後、参加者は無事助かり、直ちに、自主防災組織の災害対策本部を設置したとします。実在の地域(自主防災組織)で行う場合は、実際に本部設置を予定している施設に役員が集合したことを前提とします。

架空地域Aで行う場合は、各グループごと地図上のいずれかの場所を選んで「本部」を印します。「本部」と書いた札を置いてかまいません。

このとき、参加者は「本部及び周辺地域は、停電により電気機器類はまったく機能しておらず、通信機器も使えない。」という状況であることを認識しておきます。

② 班員の人数確定

情報班・消火班などの各班員の人数について、実在の地域(自主防災組織)で行う場合は、地震発生条件を考慮した上で、予想される参集人数を記入してください。

架空地域Aで行う場合は、下記の条件に応じて、〈表1〉に参集人数を記入します。

ア 平日・土日の夜間(午後6時～翌朝8時30分)	各班20人
イ 土日の昼間(午前9時～午後5時30分)	各班15人
ウ 平日の昼間(午前9時～午後5時30分)	各班10人

③ 訓練開始前の説明

司会進行役は、「これから5～10分間隔で課題や情報を付与するので、付与された課題ごとに、誰が、何人で、どこに、何を、いくつ持っていき、どう行動するのかを各グループで自由に意見交換し、対応策を考えてください。」と指示します。

架空地域Aで行う場合は、〈表1〉、〈表2〉を使って、課題ごとに必要なメモを記入しておくよう伝えます。
※ 参加者から質問があればここで受け付けます。

V 課題・情報付与

1～2時間

① 課題・情報の付与

いよいよ、課題・情報を付与します。

再度、地震発生条件を確認してから、課題や情報を記載したカード(紙)を全グループに配布します。

付与された課題に対する対応策は、決められた答えがないことや大雑把なものでもかまわない旨を伝えます。

② 付与のタイミング

課題・情報は順番に付与していきますが、1課題当たりの検討時間は5～10分間(平均7分間隔)が適当です。課題と課題の間に付与する情報は内容に応じて適宜のタイミング(間隔)で付与します。

〈注〉 付与する際、参加者全員が確認できるようプロジェクターで映写したり、司会進行役が声に出して復唱してもかまいませんが、司会進行役はできる限り無言に徹し、参加者の意見交換や検討作業を阻害しないほうが効果的です。

③ 課題・情報の内容

P6を参照してください。

司会進行役が適宜内容(バージョン)を変えてもかまいません。特に、津波や山がけ崩れの発生や集落孤立、帰宅困難者の多数滞留などが予想される地域を対象に行う場合は、課題内容を地域特性に合わせることでより効果的となります。

④ 課題・情報付与の所要時間

課題は最大10題、情報は最大4種類あります。

全部付与すると、2時間以上要しますが、訓練時間に限りがある場合や参加者の熟練度によって、適宜、省略して時間短縮することが可能です。

おおむねの所要時間は下記のとおりです。

ア 課題2～課題6(課題1と情報1を省略)	約1時間
イ 課題1～課題6	約1時間15分
ウ 課題1～課題7	約1時間30分
エ 課題9のみを省略	約2時間

付与する課題・情報 [架空地域Aで行う場合のモデル]

臨場感を演出し、参加者の緊急時の対応力を養成するため、参加者には実施前に内容を知られないようにします。

〔注〕 付与番号の「課題・情報」の右に記載された時間は、イメージする上での地震発生からの想定経過時間です。

付与番号	課題内容	ヒント
課題1 約15分後	地域の被災状況が分からない！	誰が被災状況を確認するのか？ 各地の情報を自主防災組織災害対策本部にどう伝えるのか？
情報1 約20分後	地域内の道路が10箇所、ブロック塀の倒壊や電柱の転倒などにより通行できなくなった。(訓練上、通行不能箇所10箇所に適宜「×」をつける。)	
課題2 約30分後	B地点で3軒の家屋全壊。住人が生き埋め！	B地点は地域Aの中心から約200m西。誰が、何人で、何を持って、救出救助に向かうのか？
課題3 約45分後	C地点で10軒の家屋全壊。住人が生き埋め！	C地点は地域Aの中心から約200m南。誰が、何人で、何を持って救出救助に向かうのか？
情報2 約50分後	南西から北東方向へ向かっての風が吹いてきた。 (地震発生時の天候が「無風」の場合は「弱い風」とする。)	
課題4 約1時間後	飲食店が建ち並ぶD地点で火災発生！	D地点は地域Aの中心から約300m南西。誰が、何人で、何を持って消火活動に向かうのか？
課題5 約1時間30分後	D地点の火災が拡大。延焼火災の危険性が高まった。	火災が拡大し、住民の手で初期消火ができなくなった場合どうするのか？
課題6 約2時間後	B地点で救出された人は5人。皆、負傷している！	意識不明や骨折、出血など様々な怪我をしている。誰が、どのように応急手当をするのか？
情報3 約2時間45分後	D地点で発生した火災は拡大したものの、街区の26軒を全半焼して鎮火した。幸いにも、商店や病院のある北側及び東側の街区への延焼は免れた。	
課題7 約3時間後	各地から怪我人がE小学校に集まってきた！	救護所の医師・看護師はまだ来ていない。誰が、どのように、応急手当や応急救護をするのか？
課題8 約4時間後	多くの人々がE小学校の体育館に集まってきた！	避難所の開設は、誰が、どのタイミングで行うのか。どのように入所の受付を開始するのか？
課題9 約6時間後	E小学校の避難所に、要援護者のいる世帯が来た！	寝たきりの高齢者がいる世帯や身体に障害のある子どもがいる世帯がやってきた。どのように受け付けるのか？
情報4 約24時間後	B地点の救出救助、応急救護は終了した。C地点の救出救助は今も続いている。D地点以外の火災はない。E小学校の救護所、避難所での混乱は収束した。	
課題10 約24時間後	Fマンションに住む高齢者世帯の様子が不明！	自宅生活者の水食料が不足している。高層マンションの世帯を中心にどう把握、支援するのか？

VI 振り返り

15~30分

① 参加者の感想、反省、質疑応答

訓練が終了したら、災害対応で悩んだこと、疑問、発見、感想などを発表してもらいます。時間があるときは、各グループから多くの参加者に発表してもらいます。

時間がないときは、適宜、簡略、省略してもかまいません。

② 講評、解説

最後に、司会進行役が講評を伝え、すべて終了します。

なお、時間がある場合や質問に回答する必要がある場合は、課題ごとに要点や留意事項を解説します。

解説例

① 本部の場所

本部や防災倉庫は耐震性があること。設置場所は津波や山がけ崩れなどの危険性がない地域であること。

② 課題1関係

停電や電話不通の状況下で地域の情報収集を行う必要があること。情報のないところは甚大な被害となっている可能性があることを想定しておく。

③ 課題2・3関係

倒壊建物からの救出には10人以上が必要。資機材の運搬方法も考えておく必要がある。作業時間は数時間かかることを想定しておく。

④ 課題4関係

初期消火のためには、迅速な消火行動が必要。消火器や消防水利の場所を住民が把握しておくこと。可搬ポンプの操作には6人以上が必要。バケツリレーも機敏にできるよう人数と道具を要確保。

⑤ 課題5関係

延焼火災の場合の避難行動を臨機応変にできるようにしておく。率先避難者による呼びかけ避難も大事。風向きや風の強さにも要注意。

⑥ 課題6・7関係

負傷者の応急手当の方法と、住民ができるスタート式トリアージ法を把握しておく。最初に救護所へ搬送するルールや担架搬送に最低6人かかることも把握しておく。

⑦ 課題8・9関係

避難所の開設ルール、初動の段取り、運営の困難さを理解しておく必要がある。

⑧ 課題10関係

被災後も自宅で生活する人への支援も軽視しないこと。高層マンション等に居住している人は停電により移動できず、自室に孤立している可能性がある。

